



成事在人(成事在人) 人界觀(人界觀)に現れた東西洋の人間觀(人間觀)の再活性化

Revitalization of East-West Views in Seongsa-jaein

研究の背景および目的

- **なぜ東西人間観の再解釈が必要なのか?**
 - 西洋の構成主義的人間観と東洋伝統人間観の限界への直面
 - 現代文明の危機と新たな統合的人間観の要求
- **大巡思想の人界観の現代的意義**
 - 実体と属性を統合する人間観の提示
 - 天地人三界の力動的再構成と人間の役割の再定立
- **主要な研究質問および方法論**
 - 儒仏仙と西欧構成主義的人間観の体系的比較分析
 - 大巡思想内の調理(調理)・気化(氣化)概念を通じた東西統合可能性の探索

大巡思想の人界観概念の紹介

1

人界観は人間世界に対する観点で、大巡思想では儒仏仙思想との連携を通じて人間の本質と価値を規定する。「典教」に現れる儒仏仙は人間教育過程の一環として理解される。

2

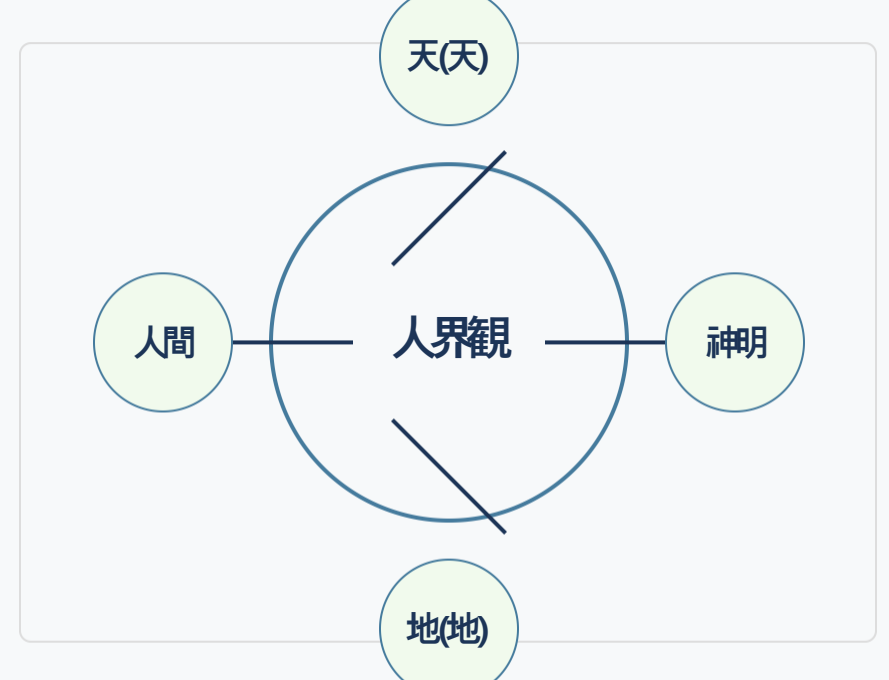
人間と天地(天地)の関係

大巡思想では人間は天地の最霊者であり、天地との相互作用を通じて存在する。このような関係は天地報恩(天地報恩)という核心概念で表現され、人間は天地に報恩することで道通を成すことができる。

3

大巡思想は既存の儒仏仙と異なり神明の「実体性」を強調する。神(神)が持つ属性のみならず実質的存在としての神明を重視し、人間と神明の調和ある関係を通じた解冤相生を追求する。

人界観の関係図



大巡思想で人界は天地・神明と有機的相互作用を通じて構成される

東洋人間観－儒仏仙思想の分析



二重肯定の論理: 「XはXであり?Xは-X」 友(X)は友(X)で、仇(-X)は仇(-X) 内部的超越と範節(範節)の強調、**道德体系の確立**

沐帶(浴帶) 以詔(以詔)



二重否定の論理: 「XはXでも-Xでもない」 友も仇もない一切の空(空)を追求
一切の対立の超越、中道(中道)と知覚(知覚)の強調
養生(養生) 寂滅(寂滅)



逆説的論理: 「Xは-Xであり、-XはX」 仇(-X)は友(X)、友(X)は仇(-X)
対立関係の対称性、虚靈(虚靈)と調和(調和)の強調
胞胎(胞胎) 虚無(虚無)

12運星と儒仏仙の関連性

区分	仙(仙)	仏(佛)	儒(儒)
12運星	胞胎(胞胎)	養生(養生)	浴帶(浴帶)
特性	調和(調和)	形体(形體)	範節(範節)
論理構造	XはX -XはX	XはXでも-Xでもない	XはX -Xは-X
代表人物	老子	釈迦	孔子
心の作用	虚靈(虚靈)	知覚(知覚)	神明(神明)

大巡思想では儒仏仙それぞれの属性とともに実体的な神明概念を強調し、儒仏仙の虚無・寂滅・離垢は十二運星で胞胎・養生・浴帶の次の段階である冠旺(冠旺)へと統合される。大巡思想は冠旺の道(道)として三教の統合的理解を提示する。

12運星と儒仏仙の関連性

- 十二運星と儒仏仙思想の対応構造

大巡思想に現れる十二運星は儒(儒)・仏(佛)・仙(仙)三教と密接な関連性を持ち、特に胞胎、養生、浴帶は仙、仏、儒の虚無、寂滅、離調と対応する。

- 虚霊(虚霊)知覚(知覚)神明(神明)構造

性理学の心の構造である虚霊-知覚-神明はそれぞれ天地人に対応し、仙仏儒の虚無-寂滅-離調と平行関係を成す。これは本体-作用-主体の機能的分化として理解できる。

- 属性中心から実体中心へ

既存の東洋思想が属性的要素を強調した反面、大巡思想は実体性を強調して東西洋人間観の新たな統合を提示する。

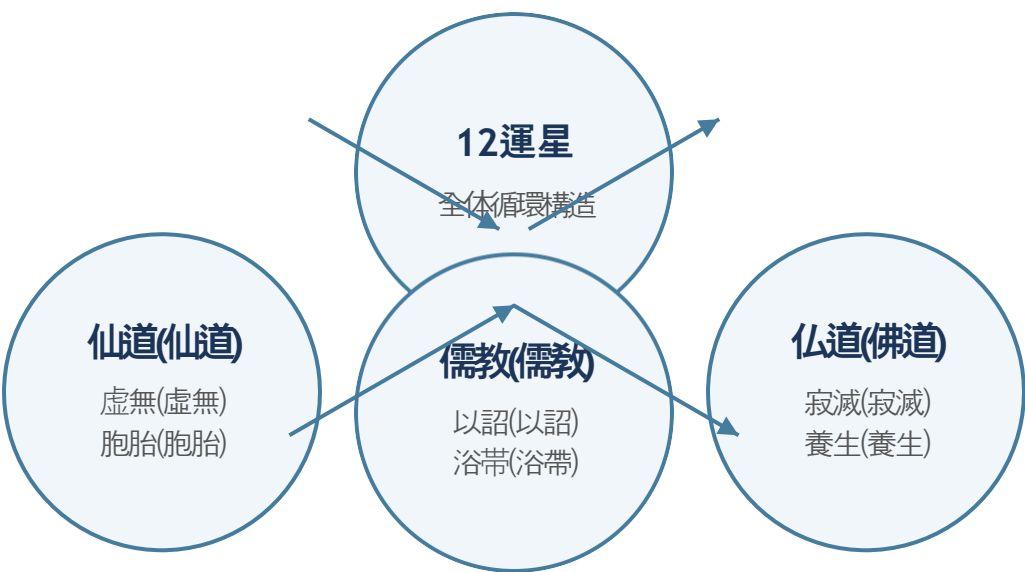
区分	仙(仙)	仏(佛)	儒(儒)
12運星	胞胎	養生	浴帶
特性	虚無	寂滅	以詔
心の構造	虚霊	知覚	神明

- 天地の気運と儒仏仙の関係

仙道の虚無、仏教の寂滅、儒教の離調はそれぞれ天地の胞胎、養生、浴帶という気運を受けて形成され、十二運星のうち冠旺段階で統合される。

- 『典経』の核心的一節

“受天地之虚無仙之胞胎
受天地之寂滅佛之養生
受天地之以詔儒之浴帶”



十巡田相に七十五十一運星と儒仏仙田相の相関関係

西洋近代人間観—構成主義の展開

1

近代西洋の構成主義は神中心から人間中心へと世界観の転換を成した。デカルトの「我思う、故に我あり」に始まり、カントの「人間の五感を通じて世界を構成する」という思想へと発展した。

2

「神は死んだ」という表現に代表される西洋近代は唯一神が消えた場所に人間の五感という実体を代替した。世界は各自自ら構成するものであるという構成主義的世界観は自然を支配・操作する実体的世界観へと発展した。

1637年

デカルト(René Descartes)

「我思う、故に我在り」-認識論的転換の始まり

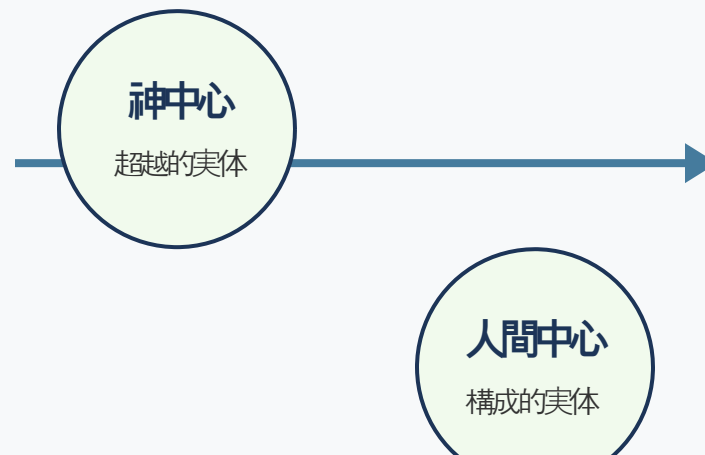
1710年

バークリー(George Berkeley)

「存在するとは知覚されることである」-観念論の展開

1784年

西洋人間観のパラダイム転換



西洋的構成主義の特徴

- 世界を計量化、道具化する実践的観点
- 感覚と理性に基づく知識の構成
- 自然を人間の認識対象として客体化
- 実体中心の存在論(v.s. 東洋の属性中心)

東西人間観の比較分析

比較項目	東洋人間観	西洋人間観	大巡思想人間観
人間の本質	属性的、関係的 (虚無・寂滅・以詔)	実体的、独立的 (自我中心)	属性と実体の統合(神人調和)
神(神)との関係	内在的、気化(氣化) (陰陽五行の原理)	超越的、対立的 (「神は死んだ」)	実体的神明との共存(天地報恩)
思维方式	相関的思惟 条理(調理)	構成主義的思惟 デカルト・カント	解冤(解冤)中心 の実践的修行
世界観	十二運星、天地人(均衡と調和)	自然の計量化 (道具化、支配)	三界の再定立 (可変性、互換性)

東西人間観の根本的差異

- 東洋:内在的・関係的アプローチ、人間-自然-神明の調和を強調
- 西洋:実体的・道具的アプローチ、人間中心の世界認識
- 東洋は属性偏重、西洋は実体偏重の偏重性の限界

大巡思想の融合的人間観

- 天地人の相関性と実体的神明概念の統合
- 条理・気化と、実体・属性の統合的理
- 天地報恩と解冤相生を通じた宇宙的調和の実現

大巡思想の人間観の差別性

大巡思想は東洋の属性論的観点と西洋の実体論的観点を統合し、人間が天地との関係の中で報恩と解冤を通じて神人調化を成す主体的存在として定立する。このような観点は現代文明の危機を克服できる新たな人間観の可能性を提示する。

条理(調理)と気化(氣化)概念の解説

調

調理は中心から乾坤を統制する方法で、人間が土(土)の位置で周辺事物を仲介することを意味する。人間が理(理)を持つ存在として正義と共感で世界秩序を調節する力動的役割を強調する。

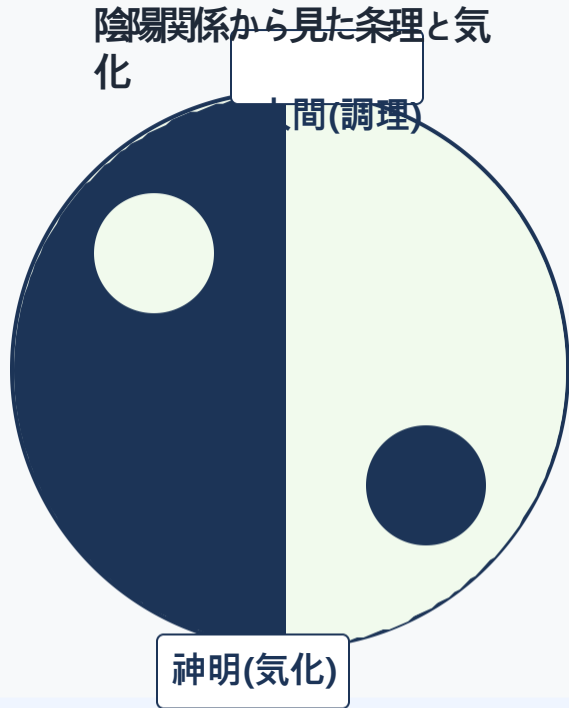
氣

気化(氣化) - 神明の作用原理

気化は神明(神明)が氣(氣)を通じて作用する原理で、陰陽論的合理性に基づく相対的思惟を示す。東洋では神明は人間と対立的存在ではなく陰陽関係で人間と結合可能な存在として理解される。

東西人間・神関係の比較

区分	東洋条理気化の観点	西洋構成主義の観点
人間と世界の関係	内在的関係的(人間が中心で世界を仲介)	客観的道具的(人間が世界の外部から構成)



邵康節の神人関係の説明

邵康節は東洋の調理(調理)・気化(氣化)関係を中(中)と土(土)としての人間と四象(四象)と周辺としての神の配置で説明した。これは西洋の「我思う、故に我あり」というデカルト的構成主義と根本的に異なる世界観を示す。

天地報恩の天人関係

1

大巡思想において人間と天との関係は「天地報恩」に集約される。人間が地上天国を実現できる根本的理由は心を通じて天地の恩恵に報いることができる存在であるからである。

「道通天地報恩」(道は天地に報恩することである)

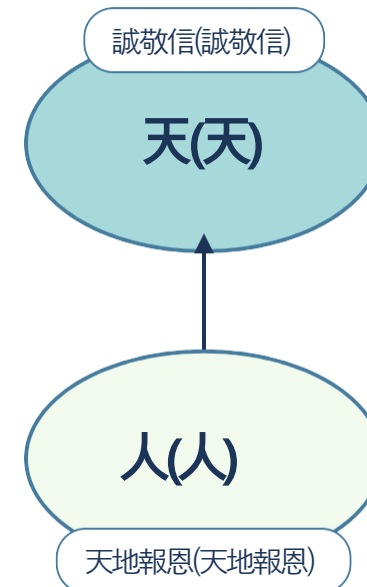
2 天地誠敬信(誠敬信)と人間の報恩

人間の生命と寿命、福祿は天地神明の誠敬信(誠敬信)によるものである。人間はこれに対する報恩を通じて道通を成すことができ、これが人間の倫理的・宇宙的課業となる。

「生(生)と寿命(壽命)と福祿(福祿)は天地(天地)の恩恵(恩恵)であるので誠(誠)・敬(敬)・信(信)によって天地(天地)報恩(報恩)の大義(大義)を立てて人道(人道)を尽くし...」

3

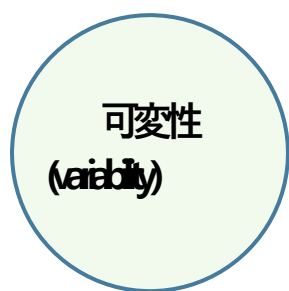
天地報恩を通じた人間と天の関係の再定立



「至寶即吾之心靈也 心靈通則鬼神可與酬酢 萬物可與俱序」(至極の宝はすなわち我が心靈であり、心靈が通ずれば鬼神と応酬でき、万物と共に順序を成しうる)

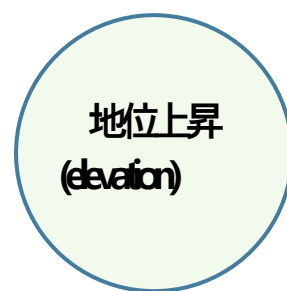
三界観再定立の自生的近代性

大巡思想における三界観(天・地・人)の再定立は韓国思惟に基づく自生的近代性を示し、これは既存の東西洋世界観の限界を越える新たなパラダイムを提示する。



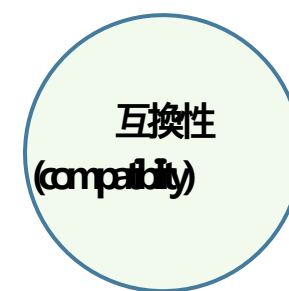
天界の可変性

- 固定不変の天(天)ではなく「老いた天」という変化可能な天界概念
- 九天上帝の人身降世を通じた天地公事によって天界が再定立される
- 西洋の「神は死んだ」と異なり「天が老いた」という代替的観点



地界の地位上昇

- 伝統的に低い地位であった地界(地界)が天界と同等の位置へと格上げ
- 天尊地卑(天尊地卑)の垂直的構造から天地公事による水平的関係へと転換
- 地上神仙(地上神仙)の実現と地界の積極的価値の再発見



三界の互換性

- 天・地・人三界が相互疎通し交流する開かれた体系
- 人間の条理(調理)と神明の気化(氣化)を通じた階層間の媒介
- 天地人三界の共通構造と原理が解冤相生によって疎通回復

研究結論および現代的示唆点

1

大巡思想は東洋の属性論的人間観(虚無・寂滅・離隔)と西洋の実体的人間観(構成主義)それぞれの限界を克服し、人間・神明・天地の調和ある関係を志向する統合的人間観を提示する。

現代的意味

- 技術発展と人間アイデンティティの拡張に対する哲学
- 地上世界の提供
- 東西文化の建設的対話と融合のための接点の提示

2

ポストヒューマン時代の人間位相の再定立

大巡思想の三界観の再定立を通じて人間は単なる被害物ではなく天地と互換可能な宇宙的存在として生まれ変わる。これは構成主義的人間観の限界と環境危機を招いた機械論的世界観を克服できる新たな観点である。

現代的意味

- 人間中心主義を越えた生態学的思考の拡張人工
- 知能と人間の共存のための倫理的基盤の提供

大巡思想が提供する未来的価値

三界観の再定立の自生的近代性の側面



天界・地界・人界の流動的変化可能性



人間と地界の宇宙的役割の拡張



天地人三界の相互作用と疎通

最終結論

大巡思想の人間観は儒仏仙と西洋近代人間観の限界を克服し、東洋哲学の自生的近代性を通じて実体と属性を統合した新たな人間・宇宙関係のパラダイムを提示する。

参考文献および質疑応答

国内文献

- 大巡真理会教務部(2010)、『典経』、驪州:大巡真理会出版部。
- 金鐸(2006)、『甌山姜一淳韓国新宗教の成立と発展』、ソウル:民俗苑。
- 車先根(2018)、『大巡思想の神観と人間観』、大巡思想論叢、30輯、1-34。

国外文献

- Taylor, C. (1989), *Sources of the Self: The Making of the Modern Identity*, Cambridge: Harvard University Press.
- Spengler, O. (1918), *Der Untergang des Abendlandes*, Wien: Braumüller.
- Habermas, J. (1981), *Theorie des kommunikativen Handelns*, Frankfurt: Suhrkamp.

古典文献

- 『黄帝内经(黄帝内經)』
- 『易经(周易)』

質疑応答



論文についてのご質問やご意見がございましたらいつでもお申し付けください。
メール: researcher@university.ac.kr 連絡先
:010-1234-5678